

宗像

毎月十五日発行 社会
大像 像 像
宗像 宗像
〒811-35 福岡県宗像郡玄海町
0940-62-1311(代) 電話
定価 一年送料共 1000円

第十四代 表千家家元千宗左宗匠 献茶祭齋行

茶道を志す人々にとつて待望の行事、第十四代表千家元千宗左、而妙齋宗匠御点前による、当社秋季恒例の献茶祭が十月十七日早朝に実行された。当日早朝より福岡県内を始め、九州・山口各県より家元の御前近所に拝見しようと集まり、出光興産株式会社福岡支店の奉仕により用意された約四百席の特設椅子もより、立見席迄和服の人々で埋め尽くされた。



宗像大社津宮・中津宮両宮の秋季大祭が、去る十月二十五・二十六日(旧暦九月十四・十五日)の両日厳肅に実行された。大祭の準備は八月下旬の注連縄用籠籠集から始まる。

外宮役員、九州同門会会長外、幹部役員等が参進、修敷の後殿へと参進した。祝詞奏の後、拝殿にて家元の淀みない御点前が披露され拝観者はかたずきのみ、真剣なまなこで自身つた。しほ静寂の後、金箔の茶碗の濃茶、銀箔に薄茶がたてられると、神職の手により神前にお供えされ、玉串拝礼の後約一時間の祭典を終了した。

その茶湯の統一をなしたのが宗匠松尾宗一、村田珠光であり、京都に出て一休に参拝し殿中のお茶の湯の伝統を極めた。その後日本における茶は奈良時代代に大陸より移入されたもので、茶湯の移入された文化があられる新興の町衆に育てられ、小大名や都、地方でも受け入れられた。

歌道理念を注入される事となり、茶道理念、精神が形成された。茶道の極致とされる「一休」は少年の頃、すでに京都において茶道事としており、二十歳の時に紹興に師事した。紹興は茶湯において「新風を起し」、利休は京都、堺の茶湯を修め、互いに茶の真の精神は珠光の茶を表現したとして、後に利休の茶が茶湯の最峰として世を支配するに至る。光香湯の奈良における継承が茶湯の本流、利休の茶が利休が「天下」の盛名をもって称されるに至って

は織田信長、豊臣秀吉の茶を主宰し、また秀吉の天下統一が進んだので利休の茶が一世の規範とされると共に利休により茶道が益々洗練されたことにある。一五九一年(天正十九年)利休は突然として秀吉より死を命ぜられたが、利休の死後一年も経たずして利休の次子「少庵」は千家の再興を許され、少庵の子供の宗旦へと継がれた。その宗旦の妻である、一男一翁宗守(宮内卿武家、路平家 三男、江宗宗左 不審庵宗左 四男、仙翠宗室 今日庵藤家 宗旦)の三流に分かれるが、利休の追慕が、麗しき三流は正統として承継せられた。利休・茶道は伝統的に今日にいたっている。

病院内で抗生物質のシャワーを浴びた黄色葡萄球菌が耐性を獲得して、術後の患者に感染し、手術でなくこの菌の繁殖で生命を失うという事例が発生している。過去五十年間、抗生物質の発見とその使用によって人類は細菌類を抑え込み、これに勝利すると信じていた。ところが近年、スーパー耐性菌MRSAやVRE(V耐性腸球菌)の発生によってこの目論みは打砕かれた。ハンセン氏病の撲滅には成功したが、耐性結核は逆に増加の傾向をみせている。医療現場だけでなく、魚の養殖、養豚、養豚などに大量の抗生物質が安易に使用され、耐性菌の生育を促すことになり、耐性菌の効能のないスーパー耐性菌を出現させた。外国では抗生物質の使用を厳しく制限し始めた。抗生物質の大量消費は細菌の耐性を高め、薬効を弱めている。安易な使用を戒めたい。

初嘗孫祝ひて植まむと友夫 婦杉苗買ひ山に入りゆく (評)今祝ひのために嘗孫も亦嘗孫のために杉を植えるだろう。代々受けつがれてゆく杉の植栽、かくして保たれてゆく山の美、そんなこと想像される歌。

鐘崎 安水 久子 遠き日の父母がどこかにいるような故里の風にはばし吹かる (評)久しぶりの帰郷だろうか、風の彼方にいる優しい父母の面影が読者にも浮かんでくるようである。

沖・中両宮秋季大祭

柔らかな秋の日差しのもと



沖中両宮奉賛会役員並びに同翼賛会、敬婦神部の方々に、十月五日に地元農家の助勢を得て真新しい注連縄が調製され、中津宮に懸けられた。更に二十四・二十五日の両日、中津宮遷座所、御嶽宮に懸けられた。更に二十四・二十五日の両日、中津宮遷座所、御嶽宮に懸けられた。

中津宮本殿に於て宵宮祭を執行、明日の大祭無事執り行われる様相を示し、翌二十一日、生憎の曇空となったが、午前八時半より、沖津宮遷座所に於て沖津宮秋季大祭が執行された。同大祭は島内の北面玄界灘を望む断崖に建てられており、海上遥か沖の神島沖ノ島に鎮座する沖津宮を拝する所である。また同九時半より、当宮の境外摂社に御嶽山山頂に鎮座する御嶽宮の秋祭りを執行、同宮は福長長寿、農業の神様と崇められており、島内の氏子、農業者関係者、遠近の参詣者多数の参列があった。同十一時より、中津宮本殿で秋季大祭が厳肅盛大に執行された。

また午後二時半より心字池前に設けられた仮設舞台に於て、中村中等氏子による一座、中村氏等氏子による演劇大会が催され、舞踊歌謡と大人から子供迄、二十数番が披露され、やんやの拍手喝采の内に演劇大会も午後四時半前にはすべて終了、神人和楽の神賑い一色となった大島の秋の一日が暮れた。本大祭に際し、御奉仕、御奉養を頂きました氏子、崇敬者の皆様、紙上より厚く御礼申し上げます。

宇美 岩崩 巨 初嘗孫祝ひて植まむと友夫 婦杉苗買ひ山に入りゆく (評)今祝ひのために嘗孫も亦嘗孫のために杉を植えるだろう。代々受けつがれてゆく杉の植栽、かくして保たれてゆく山の美、そんなこと想像される歌。

鐘崎 安水 久子 遠き日の父母がどこかにいるような故里の風にはばし吹かる (評)久しぶりの帰郷だろうか、風の彼方にいる優しい父母の面影が読者にも浮かんでくるようである。

池田 小田 イセ 雀蜂の巣は芸術が美しき木目並べて日々太りゆく (評)夕日の、輛電車から長閑な夕日風景を取らえた作者、怖い雀蜂の巣から美を感じた作者、いずれも作者の心が伝わってくる。

城南ケ丘 中間日出子 三十年経てはらからと商ふ 今日子供と共に待って過せり (評)武丸 中村さつき 沖繩の海に台風停滞し女孫の婿の帰国運る

神具・装束 株式会社 井 筒
福岡店 福岡市博多区東公園二二一(一)号802
電話 福岡(092)六五二一九四五六番
本店 福岡市下京区海小路六条北入(80)
電話 京都(075)三四一四一四番
電話 京都(075)三四一三三三番

今年 は病原性大腸菌 O157 の集団食中毒が各地で発生し注目を集めた。この菌は「かいわれいんげん」と牛の大腸に棲息する細菌で、牛には無害だが人の消化管内では猛烈に増殖し菌の毒素が血中に入るや腎機能に先ず障害が起り、血液透析が必要とされる。最新の報道では、O157 が抗生物質 FOM を投与すると、菌の死滅後毒素の排出量が、抗生物質を使用しない場合よりも十数倍増加するという。

第四五回 宗像大社歌会詠草 大野 展男 選
毎月末日/切

田野 森 甲子 いつの日か見事に咲かせむ 白萩の苗を買ひをり祭りの店に

福岡東 板矢 美春 剪定を終え狭庭のモチの木に天心の月暗照る

土穴 瀧口 敦子 沖合ひとひかり浮かぶタンカーに背蘭追日は沈みゆく

天皇陛下御箱刈のお写真を拝した。たわわに溢った箱刈りを取られた陛下の、神々しく穏やかな顔が、柔らかな秋の日差しに包まれて、収穫の秋の喜びに満ちた雰囲気を見事に捉へた一枚の写真であった。

秋は学会の季節である。先週、民俗学会が開かれた高根原浜田市とその周辺で、水田そのものが目についた。中国山地の山あひの村々には、車窓から見る限り、稲積みも見えなければ、頭を垂れた稲穂を見つめることもできなかった。

近頃は機械で刈り入れた稲は、その場で脱穀し袋詰めになって出てくるという話も聞いているが、ハザも稲積みもない秋の風景は寂しいものであった。山では紅葉が始まってあるといふのに。

それでも秋祭りは華やかに盛んにおこなはれてゐた。夜を徹して舞はれる石見の神楽、神楽殿の隅で毛布を被って漫画に読み耽る子供たち、神楽を鑑賞しようなどといふ気持ちなどこれっぽちもない少年たち、

第二十六回

秋季奉納剣道大会

日頃の技をぶつけあうちびっこ剣士達

秋季奉納剣道大会は、昭和四十六年昭和の太道營の際、奉祝の神賑行事として始まり、今年で二十六回目

を迎えた。初期の頃の小・中学生の入賞者には、現在宗像で指導者として活躍している人

もいて、その子弟も又数多く出場している。当時の様子を知ると、大会は十一月月中旬(現在は十一月三日)に行われ、朝は吐く息も真白になるくらい寒く、又素足の為、手足が

かじかんで試合どころではなかった様である。最近では気候の温暖化が進み、足袋や靴の使用が認められ、選手にとつては怪我の心配が少なくなり、安心して試合に臨む事が出来る。

今年は高校・大学生が、公式戦や遠征の為出場がなく、少し淋しい大会になるかと思われたが、宗像市郡内の小中学生四百五十名は、白熱した試合を繰り広げ、日頃の練習の技を思い切りぶつけあう子供達に観戦者



からさかんに拍手が贈られた。今年の試合結果は次の通りである。

- | | | | | | | | | | |
|-------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 小学生男子 | 優勝 江田一生(河東) | 優勝 浜田留美(安海) | 優勝 石松大輔(東部) | 優勝 石松恒人(東部) | 優勝 石松恒人(東部) | 優勝 石松恒人(東部) | 優勝 石松恒人(東部) | 優勝 石松恒人(東部) | 優勝 石松恒人(東部) |
| 一年部 | 優勝 坂田大輔(東部) | 優勝 坂田大輔(東部) | 優勝 坂田大輔(東部) | 優勝 坂田大輔(東部) | 優勝 坂田大輔(東部) | 優勝 坂田大輔(東部) | 優勝 坂田大輔(東部) | 優勝 坂田大輔(東部) | 優勝 坂田大輔(東部) |
| 二年部 | 優勝 井村匡文(河東) | 優勝 井村匡文(河東) | 優勝 井村匡文(河東) | 優勝 井村匡文(河東) | 優勝 井村匡文(河東) | 優勝 井村匡文(河東) | 優勝 井村匡文(河東) | 優勝 井村匡文(河東) | 優勝 井村匡文(河東) |
| 三年部 | 優勝 小嶋和哉(東部) | 優勝 小嶋和哉(東部) | 優勝 小嶋和哉(東部) | 優勝 小嶋和哉(東部) | 優勝 小嶋和哉(東部) | 優勝 小嶋和哉(東部) | 優勝 小嶋和哉(東部) | 優勝 小嶋和哉(東部) | 優勝 小嶋和哉(東部) |
| 四年部 | 優勝 坂本直優(日里) | 優勝 坂本直優(日里) | 優勝 坂本直優(日里) | 優勝 坂本直優(日里) | 優勝 坂本直優(日里) | 優勝 坂本直優(日里) | 優勝 坂本直優(日里) | 優勝 坂本直優(日里) | 優勝 坂本直優(日里) |
| 五年部 | 優勝 石橋和也(赤間) | 優勝 石橋和也(赤間) | 優勝 石橋和也(赤間) | 優勝 石橋和也(赤間) | 優勝 石橋和也(赤間) | 優勝 石橋和也(赤間) | 優勝 石橋和也(赤間) | 優勝 石橋和也(赤間) | 優勝 石橋和也(赤間) |
| 六年部 | 優勝 森下健士(岬) | 優勝 森下健士(岬) | 優勝 森下健士(岬) | 優勝 森下健士(岬) | 優勝 森下健士(岬) | 優勝 森下健士(岬) | 優勝 森下健士(岬) | 優勝 森下健士(岬) | 優勝 森下健士(岬) |
| 中学生男子 | 優勝 石松大輔(東部) | 優勝 石松大輔(東部) | 優勝 石松大輔(東部) | 優勝 石松大輔(東部) | 優勝 石松大輔(東部) | 優勝 石松大輔(東部) | 優勝 石松大輔(東部) | 優勝 石松大輔(東部) | 優勝 石松大輔(東部) |
| 一年部 | 優勝 緒方悠(南郷) | 優勝 緒方悠(南郷) | 優勝 緒方悠(南郷) | 優勝 緒方悠(南郷) | 優勝 緒方悠(南郷) | 優勝 緒方悠(南郷) | 優勝 緒方悠(南郷) | 優勝 緒方悠(南郷) | 優勝 緒方悠(南郷) |
| 二年部 | 優勝 西山昇平(東部) | 優勝 西山昇平(東部) | 優勝 西山昇平(東部) | 優勝 西山昇平(東部) | 優勝 西山昇平(東部) | 優勝 西山昇平(東部) | 優勝 西山昇平(東部) | 優勝 西山昇平(東部) | 優勝 西山昇平(東部) |
| 三年部 | 優勝 石田圭二(安海) | 優勝 石田圭二(安海) | 優勝 石田圭二(安海) | 優勝 石田圭二(安海) | 優勝 石田圭二(安海) | 優勝 石田圭二(安海) | 優勝 石田圭二(安海) | 優勝 石田圭二(安海) | 優勝 石田圭二(安海) |
| 四年部 | 優勝 中村匠志(中央) | 優勝 中村匠志(中央) | 優勝 中村匠志(中央) | 優勝 中村匠志(中央) | 優勝 中村匠志(中央) | 優勝 中村匠志(中央) | 優勝 中村匠志(中央) | 優勝 中村匠志(中央) | 優勝 中村匠志(中央) |
| 五年部 | 優勝 桑野崇(安海) | 優勝 桑野崇(安海) | 優勝 桑野崇(安海) | 優勝 桑野崇(安海) | 優勝 桑野崇(安海) | 優勝 桑野崇(安海) | 優勝 桑野崇(安海) | 優勝 桑野崇(安海) | 優勝 桑野崇(安海) |
| 六年部 | 優勝 木藤佑介(河東) | 優勝 木藤佑介(河東) | 優勝 木藤佑介(河東) | 優勝 木藤佑介(河東) | 優勝 木藤佑介(河東) | 優勝 木藤佑介(河東) | 優勝 木藤佑介(河東) | 優勝 木藤佑介(河東) | 優勝 木藤佑介(河東) |
| 中学生女子 | 優勝 久田龍(安海) | 優勝 久田龍(安海) | 優勝 久田龍(安海) | 優勝 久田龍(安海) | 優勝 久田龍(安海) | 優勝 久田龍(安海) | 優勝 久田龍(安海) | 優勝 久田龍(安海) | 優勝 久田龍(安海) |
| 一年部 | 優勝 占部大彦(中央) | 優勝 占部大彦(中央) | 優勝 占部大彦(中央) | 優勝 占部大彦(中央) | 優勝 占部大彦(中央) | 優勝 占部大彦(中央) | 優勝 占部大彦(中央) | 優勝 占部大彦(中央) | 優勝 占部大彦(中央) |
| 二年部 | 優勝 中野崇(安海) | 優勝 中野崇(安海) | 優勝 中野崇(安海) | 優勝 中野崇(安海) | 優勝 中野崇(安海) | 優勝 中野崇(安海) | 優勝 中野崇(安海) | 優勝 中野崇(安海) | 優勝 中野崇(安海) |
| 三年部 | 優勝 木藤佑介(河東) | 優勝 木藤佑介(河東) | 優勝 木藤佑介(河東) | 優勝 木藤佑介(河東) | 優勝 木藤佑介(河東) | 優勝 木藤佑介(河東) | 優勝 木藤佑介(河東) | 優勝 木藤佑介(河東) | 優勝 木藤佑介(河東) |
| 四年部 | 優勝 久田龍(安海) | 優勝 久田龍(安海) | 優勝 久田龍(安海) | 優勝 久田龍(安海) | 優勝 久田龍(安海) | 優勝 久田龍(安海) | 優勝 久田龍(安海) | 優勝 久田龍(安海) | 優勝 久田龍(安海) |
| 五年部 | 優勝 占部大彦(中央) | 優勝 占部大彦(中央) | 優勝 占部大彦(中央) | 優勝 占部大彦(中央) | 優勝 占部大彦(中央) | 優勝 占部大彦(中央) | 優勝 占部大彦(中央) | 優勝 占部大彦(中央) | 優勝 占部大彦(中央) |
| 六年部 | 優勝 中野崇(安海) | 優勝 中野崇(安海) | 優勝 中野崇(安海) | 優勝 中野崇(安海) | 優勝 中野崇(安海) | 優勝 中野崇(安海) | 優勝 中野崇(安海) | 優勝 中野崇(安海) | 優勝 中野崇(安海) |

稔の秋に

この秋は、神輿の巡行があり、町内毎に出す大きな「ハナ」がつきまぶる。この豪華のやうなハナが選御と同時に神社境内で突き合ひ、重なり合ひ、倒し合ひ、旧国府村町対抗の喧嘩バナへの異名をとる大騒ぎへと展開して行く。ち

ざれ飛んだ紙の花の裏打ちには、その年の年賀状が使はれてゐる。産土の祭の庭に、花に飾られた氏子の宛名の葉書が散らばる。産土の神とそこに暮らす人々の信頼関係をなご象徴的に表現してゐるのではない。この花は拾ひ集められ、幣に付け直して各家に配られる。この幣は畑や田圃に立って虫除けとするのだといふ。しかし、その田圃が見あたらないのが寂しい。石見国府村・伊甘神社での秋祭りの風景であった。石見地方の秋祭りは

これから数週間に入るといふ。二日間には群馬県片品村に行つてきた。こゝでは、刈り取られた稲穂をハザに掛け、きれいに干してあつた。背後の山並は見事に紅葉してゐた。さらに金精峠を越え、日光の紅葉は湯湖まで降りてきてゐた。それはそれは美しい湖を眺めてゐた。この週間に、西と東の二キロ強の隔たりを飛んで、それぞれの秋を目の当たりすることが出来た。日本の秋は美しく、

切なく、寂しい。失はれゆく美しさ、よく言はれるところの「滅びの美」が見えたり、本が平和であり、現在までのところ筆者の生活も曲がりなりに安定してゐるからであらう。さでなければ「滅び」など口に出るものではない。

長い間、もう二十年以上も痛めつけられて続けてゐる專業農家、後継後継も稲作りからさかんに拍手が贈られた。今年の試合結果は次の通りである。

秋山豊寛氏(現職農業者・元TBS職員・日本初の宇宙飛行士)は、ある新聞に「今年には、三千万トンの米が余分になる、といふ予想のもとに日本全国で減反が実施されている。私の地区では三十七パーセントの減反だ。さういふと、中山間地の減反割合が多くなるやうだと秋山氏は言ふ。中略：国の政策として、さらに農家を減らしたいといふところがある。これは問題です。なぜなら中山間地に農家がいないからこそ、その地域の田畑が機能し、国土保全の効果を果たしているから」と記してゐる。

手書きの「百姓通信」を発行してゐる新潟県高橋村の高橋徹氏は、米は決して余つてゐないといふ。余つてゐるのは外国産米であつて、国内産米はむしろ不足してゐるのだと。その証拠に、今年の八月になつてから(八年産米の刈り取り直前)、米行の措置がとられ、平成七年度産米の追加払いといふ形で、一俵当たり一千八百円余りの代金が、

第二十二回

奉納吟剣詩舞道大会

て清香村宗像松屋中嶋山先生外郎の献吟、當国流献舞、館長福家山先生の献剣舞が奉納された。

午後、大会に入り、当村太田福富が挨拶の後、奉納式が行なわれ、斯道の興隆に貢献された三名の方が受賞された。

今日大会で庄巻たつたのが平野野郎。これは福家山先生が宗像松屋中嶋山先生外郎の献吟、當国流献舞、館長福家山先生の献剣舞が奉納された。

午後、大会に入り、当村太田福富が挨拶の後、奉納式が行なわれ、斯道の興隆に貢献された三名の方が受賞された。

大会は改築成った清明殿の一角に建てられた。秋祭りの神賑行事として、今年で二十六回目を迎える。この大会は御存知の通り、過し昭和の大造營を記念し

大会は改築成った清明殿の一角に建てられた。秋祭りの神賑行事として、今年で二十六回目を迎える。この大会は御存知の通り、過し昭和の大造營を記念し

大会は改築成った清明殿の一角に建てられた。秋祭りの神賑行事として、今年で二十六回目を迎える。この大会は御存知の通り、過し昭和の大造營を記念し

大会は改築成った清明殿の一角に建てられた。秋祭りの神賑行事として、今年で二十六回目を迎える。この大会は御存知の通り、過し昭和の大造營を記念し



大会は改築成った清明殿の一角に建てられた。秋祭りの神賑行事として、今年で二十六回目を迎える。この大会は御存知の通り、過し昭和の大造營を記念し

大会は改築成った清明殿の一角に建てられた。秋祭りの神賑行事として、今年で二十六回目を迎える。この大会は御存知の通り、過し昭和の大造營を記念し

大会は改築成った清明殿の一角に建てられた。秋祭りの神賑行事として、今年で二十六回目を迎える。この大会は御存知の通り、過し昭和の大造營を記念し

大会は改築成った清明殿の一角に建てられた。秋祭りの神賑行事として、今年で二十六回目を迎える。この大会は御存知の通り、過し昭和の大造營を記念し

大会は改築成った清明殿の一角に建てられた。秋祭りの神賑行事として、今年で二十六回目を迎える。この大会は御存知の通り、過し昭和の大造營を記念し

大会は改築成った清明殿の一角に建てられた。秋祭りの神賑行事として、今年で二十六回目を迎える。この大会は御存知の通り、過し昭和の大造營を記念し

大会は改築成った清明殿の一角に建てられた。秋祭りの神賑行事として、今年で二十六回目を迎える。この大会は御存知の通り、過し昭和の大造營を記念し

一話(56) 中国調査紀行(19) 樂 杏 子

夕食後「民俗舞踊」を観て一年の生活記録もなされていく。かつての遊牧の民であつたウイグル族が催す青空劇場である。男女が輪になつた躍動美溢れるタンゴであり、飛び入りも大歓迎であつた。

八月十四日(日)朝七時頃、毎日のことば聞いたが、この地方ではめずらしく小雨降る。すでに気温十五度、毎日のことば聞いたが、散水車が道に水を撒き、朝食をすませ「トルファン博物館」へと行く。

トルファン地区の各古墳群からの出土品が数多く展示されてゐる。薄い凹凸の道が削れている。トルファン博物館をひた走りに走る。今も東西交易の道の一つだけであつて、乗用車も荷物車も多く行き来が激しい。

トルファンからウルムチへとは、天山脈越えである。車は息を衝ながら峠道を登つて行く。途中でカラカン砂漠への道に分かれ、上へ上へと坂を登る。峠の頂上までもわずかと、今年雪解氷の洪水で道が抉り取られ、皆んが川の中を通つてゐる。水は清く冷たい。

トルファンからウルムチへとは、天山脈越えである。車は息を衝ながら峠道を登つて行く。途中でカラカン砂漠への道に分かれ、上へ上へと坂を登る。峠の頂上までもわずかと、今年雪解氷の洪水で道が抉り取られ、皆んが川の中を通つてゐる。水は清く冷たい。

